

目次

図表目録

はじめに	Cobus de Swardt、トランスペアレンシー・インターナショナル(T I)事務局長
前書	ライー・ソウザ・ピエイラ・ドゥ・オリベイラ、Gol de Letra 財団の創立者で 1994 ワールドカップブラジル人チームのキャプテン
注意書き	
要約	ガレススウィーニー、本報告書の編集長、T I

第一部 スポーツのガバナンス：概要

- 1.1 善への原動力としてのスポーツ ボブ・マンロー、ケニアの
マトハレ青年スポーツ協会、およびマトハレ・スラム・サッカーチーム
- 1.2 フェアプレー：理想と現実 リチャード H.マクラレン、マクラレン・グローバル・スポーツ相談所
- 1.3 自律性と管理：腐敗との戦いに必要な仲間 ジーン・ループ・シャペレ、IDHEAP スイス行政学大学院大学
- 1.4 国際的なスポーツ・ガバナンスの説明責任を阻むもの ロジャー・ピエルク Jr、コロラド大学
- 1.5 アジアのサッカー界を浸食する政治干渉、権力闘争、腐敗、貪欲 ジェームズ M.ドーシー、S.ラジャラトナム国際関係学院
- 1.6 アフリカのスポーツ界の腐敗 クリス・ツマ、アフリカ・民主ガバナンスセンター (AfriCOG)
- 1.7 南米のサッカーガバナンス 腐敗と黙殺 Juca Kfourri、Folha de サンパウロ (新聞社)
- 1.8 スポーツ・ガバナンスのための指標とガイダンス Arnout Geeraert、ルーベン・カトリック大学
- 1.9 スポーツにおけるグッド・ガバナンスの例 マイケル・ペダーセン、M Inc.
- 1.10 試合のために？国際サッカーのすそ野での管理 スティーブ Menary、ワールド・サッカー誌
- 1.11 スポーツを通じた国家のイメージ・ロンダリング ナオミ・ウェストランド、アムネスティ・インターナショナル UK
- 1.12 ハンガリーにおけるスポーツの資金調達の腐敗の始まり ミクロス・リゲティとジュラ・ムシ、T I・ハンガリー
- 1.13 民間スポーツにおいてグッド・ガバナンスを保つことへの挑戦と方法 モーンスキールケビー、国際スポーツ文化協会 (ISCA)
- 1.14 ミラノ地方自治体のスポーツ倫理要綱：組織犯罪と腐敗に対する草の根アプローチ パオロ Bertaccini Bonoli, T I イタリア,カテリーナ・ゴッツオリ、ミラノカトリック大学

第二部 サッカーの金、市場と私的利益

- 2.1 オフサイド：FIFA、サッカーの市場開拓と不法な威圧
ジャミール Chade、O Estado 紙（ブラジルの新聞）
- 2.2 イギリスの『オフショア・ゲーム』診断
ジョージ・ターナー、税金公正ネットワーク
- 2.3 UK サッカークラブの不快で不適切な所有権
アルジュン・Medhi、UK 財政会計研究所
- 2.4 エージェント：腐敗はサッカー選手の移籍市場における腐敗リスクと改革の必要性
ラファエル・ポーリ、サッカー担当、国際スポーツ教育センター、ヌーシャテル大学
- 2.5 第三者に所要されるサッカー選手：人間または売買される財産？
ジョナスペーアホフマン、FIFPro
- 2.6 南アメリカ第三者所有権の起源、実態、および規則
アレクサンドラ・ゴメス・Bruinewoud、FIFPro、
およびゴンザーローBossart、アレッサンドリ Bossart パチェコ・Cia 社

第三部 脚光を浴びるイベント

- 3.1 メガイベントのさまざまな役割：大口の公約としょぼい結果？
マーティン・ミューラー、チューリッヒ大学
- 3.2 イベントの入札者とその動機
スカーレット Cornelissen、ステレンブーシュ大学
- 3.3 スポーツのメガイベントの効果診断についての問題
Eleni Theodoraki、エジンバラネーピア大学
- 3.4 オリンピックとワールドカップの入札における不正
アンドリュー・ジンバリスト、スミスカレッジ
- 3.5 妥協するのか、されるのか？オリンピックと FIFA ワールドカップ開催地決定までの入札プロセス
ステファン Szymanski、ミシガンスポーツ管理センター
- 3.6 スポーツのメガイベントの計画と主催：資源、形態および腐敗の防止
ジョン・ホーン、ランカシャー中央大学
- 3.7 主要なスポーツ・イベントの計画における腐敗防止：公になった問題
ウォルフガング Maennig、ハンブルク大学
- 3.8 2010 のデリーイギリス連邦競技大会の不正 およびシバージー・スタジアムの修理
Ashutosh クマール Mishra、T I インド
- 3.9 今後のスポーツ・イベントに向けて 2012 のロンドンオリンピックから学ぶ
ケビンカーペンター、キャプティブ・スポーツ法務相談所
- 3.10 2014 のソチ冬季オリンピック：誰が得をしたか？
オレグ Golubchikov、カーディフ大学
- 3.11 透明性と監視の必要性：ロシアの 2018 ワールドカップに向けて
アンナ Koval とアンドリュー Jvirblis、T I ロシア

3.12 スポーツのメガイイベントにおける腐敗と権利:2022 カタールワールドカップに向けて
シャラン・バロウ 国際労働組合総連合会 (ITUC)

3.13 『役割モデル』としてのブラジルの経験
クリストファーガフニー、チューリッヒ大学

3.14 リオ 2016 およびブラジルにおける透明性の発生
アンデイス・ポールディング、パット・バール、アルバート・フローレス、カット・ギャビン、ショーンフレイマン、タイラー・クリンク、カーター・ニコルズ、アン・リード、およびリナ・バン・オーデン、リッチモンド大学

3.15 スポーツのメガイイベントの遺産:有益なもの、破壊的なもの
ヘレン Lenskyj、トロント大学

3.16 スペインのサッカークラブによる都市の変化
ネファー・ルイス・クレスポ、T I・スペイン

第四部 スポーツ賭博

4.1 スポーツが胴元に屈する理由
デ克蘭・ヒル、調査報道ジャーナリスト

4.2 賭博産業の役割
ベンバン Rompuy、TMC アッセル研究所

4.3 バングラデシュのクリケット:ガバナンスの試みと賭博
Iftexhar Zaman、Rumana Sharmin、およびモハマド Nure Alam、T I バングラデシュ

4.4 スポーツ運営組織と大衆の意志の間のギャップ:リトアニアのスポーツ賭博への反応
Rugile Trumpyte、T I・リトアニア

4.5 オーストラリアのスポーツ賭博に対する「国の方針」
ジェーン・エリス、T I オーストラリア

4.6 スポーツ賭博:防止の役割
ウルリケスピッツ、T I ドイツ

4.7 フィンランドのサッカーでの賭博対策へのニューメディアによるアプローチ
Annukka Timonen、T I フィンランド

4.8 スポーツ賭博の防止と教育:ヨーロッパの経験
デボラ・アンガー、T I

4.9 オーストリアはどのように賭博と戦い、ガバナンスを促進したか
セヴェラン Moritzer、プレイ・フェア・コード (スポーツガバナンス啓発団体)

第五部 米国モデル:大学のスポーツと腐敗

5.1 米国大学スポーツの腐敗の根
ドナ Lopiano、スポーツ・マネジメント・リソース社

5.2 教育界の腐敗と商業化された大学スポーツ:ノース・カロライナ大学の事例
ジェイ M.スミス、ノース・カロライナ大学、チャペルヒル校

5.3 米国のプロフェッショナルな大学スポーツの改革

アレン・サック、ニューヘーブン大学

5.4 米国大学スポーツの不均衡、差別、および性的な暴力

エリン Buzuvis、ウェストニューイングランド大学、および Kristine ニューホール、マサチューセッツ大学アマーストカレッジ

第六部：スポーツ参加者の役割

6.1 スポーツ倫理を守るための国際オリンピック委員会の対策

Paquerette ジラール Zappelli、国際オリンピック委員会

6.2 スポーツでの腐敗のリスクと戦う：政府間の視座

スタニスラス・フロッサール、欧州会議、スポーツへの拡大部分協定担当

6.3 ユネスコ：スポーツの腐敗と戦うための国際的な合意策定

ナダル・ナシフ、ユネスコ

6.4 ホストとしてのスイスの役割：スポーツ組織の説明責任と意義を高めるための動き

ルシアン W. Valloni とエリック・P・ノイエンシュバンダー、Froriep(スイスの法律事務所)

6.5 スポンサーから見たスポーツ倫理の向上：

Jaimie フラー、SKINS 社（コンプレッションウェアの会社）

6.6 選手から見た透明性と倫理強化の必要性

ルイスサハ、アクシス・スター社（スポーツのプロダクション、コンサルタント）

6.7 スポーツ選手の組織化：スポーツのガバナンスへの批判

ブレンダンシュワブ、UNI ワールド・アスリート（世界スポーツ選手協会）

6.8 効果的なガバナンスにおけるサポーターの役割

ベン・シェイブとアントニア・ハーゲマン、サポーターズ・ダイレクト（イギリスの公的サッカーファン協会）

6.9 他から学ぶ：キャンペーンのキックオフ

リチャードベイツ、キックイットアウト協会

6.10 大企業資本がスポーツのジャーナリズムの厳しい目を曇らせる

ピーター・イングリッシュ、サンシャイン大学

6.11 新たな球技：競争相手としてのチームを束ねる

ジョンアフレック、ジョンカーリー・スポーツ・ジャーナリズムセンター

6.12 反腐敗の動きがスポーツにもたらしうるもの：T I ドイツの経験

シルビア・シェンク、T I ドイツ

イラスト目次（出典を明示すれば引用・転載自由です）

図

1.1 「スポーツの自浄」の主な歴史	21
1.2 ガバナンスの必要性	23
1.3 ハンガリーで助成金を得ていたサッカークラブ 2011-2015	82
1.4 スポーツを教会に例えると	89
2.1 五大リーグのクライアントにおける選手とエージェントの取り分	115
3.1 1998-2012 のオリンピックにおけるスポーツ関連の支出超過	135
3.2 主要なイベント入札の国内への経済効果	141
3.3 イベント関係者のパワーリスクという皮肉	145
3.4 フォーカスの概念とレベル	148
3.5 スポーツのメガイベントの影響	149
3.6 南アフリカ 2010	155
3.7 オリンピックの国民一人あたりのコストと GDP 比 2002-2014	185
3.8 ロシアのメガイベント地図と出資額	194
3.9 ブラジルの国立競技場：ブラジリアの白い象	205
3.10 スペインのムルシア競技場の建設前後の地価の変化	225
4.1 スポーツ賭博：サッカー対バスケットボール	251
4.2 賭けはすべて負ける	258
5.1 最も高い給与を得た公務員=大学スポーツのヘッドコーチ	280
5.2 スポーツ選手のための『ポチョムキン（楽勝）』学科	287
6.1 サポーターと影響	341

表

1.1 バドミントン世界同盟における一票の重み	63-64
3.1 イベントサイズに応じた得点簿	133
3.2 選ばれたイベントのサイズ分類	134
3.3 2018 ワールドカップ準備のための公的予算	193

囲み記事

1.1 スポーツ・ガバナンスの監視者	59
1.2 FIFA と不干渉原則	69
1.3 フランス、カタール、およびパリサン・ジェルマンの購入	76
1.4 『草の根スポーツのグッド・ガバナンス』プロジェクト	90
1.5 草の根のグッド・ガバナンスへのリスクの例	91
1.6 ミラノ市における草の根スポーツの倫理要綱	95
3.1 メガイベントの効果測定：アテネオリンピック 2004	144
3.2 メガイベントの効果測定：ロンドンオリンピック 2012	146
3.3 ブラジルの「クリーンなゲーム」事業	214
4.1 プロサッカーの賭博リスク	260
6.1 スイスのスポーツ賭博と法律	322
6.2 クラブ所有権の変化	339